

子育て・教育部会における「学校教育の再編」議論について、これまでの情報提供・まとめ

学校教育環境の現状

○児童生徒数の比較 (S60-H30)

S60年度

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
幸小	34	20	52	44	38	57	245
池上小	78	80	94	76	100	104	532
計	112	100	146	120	138	161	777

富秋中	213	184	182	-	-	-	579
-----	-----	-----	-----	---	---	---	-----

H30年度

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
幸小	18	16	11	27	14	19	105
池上小	40	32	30	38	36	26	202
計	58	48	41	65	50	45	307

富秋中	70	58	71	-	-	-	199
-----	----	----	----	---	---	---	-----

○学級数の比較 (S60-H30)

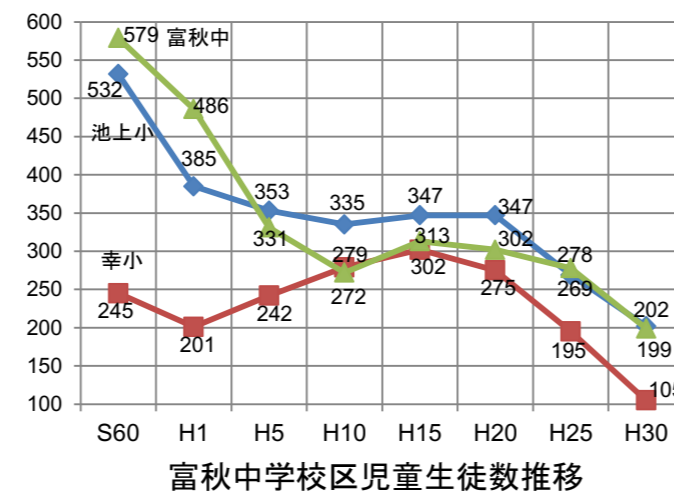
	幸小	池上小	富秋中
S60	10	15	18
H30	6	7	6

※昭和60年度に比べ児童生徒数は、半分もしくは1/3程度に減少

※昭和60年度頃、小学校では、ほぼ複数学級が確保されていたが現在ではほぼ単学級

※将来的な増加の見込みは、現時点ではない

※中学校においても、将来的に単学級になる可能性



施設一体型小中一貫校について

○施設一体型小中一貫校とは

小学校と中学校を、同敷地内の1つの施設内に設置

施設一体型

施設分離型



小中一貫教育

⇒施設一体型とすることで、より一貫教育の効果が期待される。

○地域への波及効果

1.PTA活動の活性化

現在は個々の校区でのPTA活動…

ひとつのPTAとなり参加者の負担軽減、交流増による一体感が生まれる！

2.町会等の支援

現在は校区毎の支援…

中学校区全体で支援ができる！

3.人口の流入増・流出減

- ・小・中教員による育み
- ・多様な異学年交流
- ・小学生の部活動への参加
- ・校区全体での子ども見守り育成等

こどもが生まれたので、地域に帰ろう！

このまちで子育てがしたい！

和泉市南松尾はつが野学園の特色 (7/21 施設見学会)

① 一部教科担任制

前期課程高学年での算数・英語・音楽などで一部教科担任制を導入し、後期課程での教科担任制へスムーズに移行できる

② 異学年交流

後期課程から前期課程へ出張出前授業、読み聞かせ、交流給食等、異学年の児童と交流する機会が多い

③ 5・6年生の部活動参加

5年生から、学級・学年の枠を超えてスポーツや芸術文化に親しむことができるよう部活動に参加可能としている

④ 各課程の成長段階に合わせた施設

前期課程、後期課程それぞれの生徒が活用しやすいよう、図書室、体育館、プール等は、それぞれ十分な広さを確保している

⑤ 地域活動室の設置

地域の方が利用するのに配慮した施設を設けている



市の基本的な考え方

- ・全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を越えた集団を編成し、同学年に複数教員を配置するためには、1学年2学級以上が望ましい。
- ・集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい。

その他として

仮に1学年1クラスであっても、施設一体型小中一貫校とすることで、9年間の系統立った教育等を受けることができるため、有益と考えている。

南松尾はつが野学園 PTA に対する質疑（8/21 意見交換会）

- Q. 南松尾はつが野学園になったことで子どもたちが変わったと感じることはあるか**
 ⇒ 遊ぶ友だちが増えて、子どもが明るくなった。下級生に対する上級生の意識が芽生えた。
- Q. 小中一貫校化によるメリット**
 ⇒ 1～9年生の縦割り活動が活発 / 低学年を見る高学年の思いやりが芽生えること
 後期課程（7年生以上）の姿に憧れを抱き、後期課程を楽しみにする子が多い
 後期課程になっても前期課程の先生が成長を見守る
 5・6年生から部活動に参加できてよい経験 / 参観日が同日で保護者負担が減る
- Q. 小中一貫校化によるデメリット**
 ⇒ 後期課程（7年生）に上がる時の意識が薄まり、あまり自覚がないこと。
- Q. 子どもたちはどの段階で小中一貫校化することについて知ったのか**
 ⇒ 一貫校決定の大体1年前くらいの段階。
- Q. PTA 運営は前期課程と後期課程でそれぞれどうしているのか。**
 ⇒ 前期後期合わせて本部役員12名。会長は後期課程から選出。
- Q. 一貫校化への反対意見としてどのようなものがあったか。**
 ⇒ 通学距離（最大約6km）の問題、100年の伝統校が無くなることへの懸念。

事例紹介

○大阪府内における施設一体型小・中学校（園）の状況

大阪府内の状況（平成30年5月1日現在）では、

11校の施設一体型小中一貫校、4校の義務教育学校が設置されている。

⇒多くの市町村が南松尾はつが野学園へ視察に訪れている。今後も設置数は増える予定。



【能勢ささゆり学園】H28 能勢町

- ・学校支援ボランティアによる放課後学習教室、体験教室を実施
- ・中学生を対象に自立学習塾を実施（有償）
- ・地元ボランティアや教育委員会、各団体・協会が活動支援



【ほそごう学園】H27 池田市

- ・放課後英語教室 「ほそごうAS（アフタースクール）イングリッシュ」
 →希望する2～6年生を対象に実施



【大泉学園】H25 堺市

- ・小規模校化、生徒指導などの課題解決に向け、地域が先導し各所へはたらきかけたことにより、自尊感情の高まり、生徒指導面で成果

これまでの子育て・教育部会での主な意見

- 小中一貫校の良さそうな所について
 - ・大人数の中で異なる価値観の子どもと触れる機会は大切。
- 小中一貫校の心配な点について
 - ・上級生の影響が早くから及ぶことが心配。
 - ・小学6年生の最高学年としての意識が薄れ自覚がなくなってしまうことが懸念。
 - ・教員の負担が増えて、子どもへのケアが不足しないような対策が必要。
- 和泉市のモデルとなる、通わせたいと思われる学校をつくりたい
 - ・地域の人たちが入り込み、多世代交流が盛んな学校がつかれないか。
- 当事者である保護者の声も聞くべき
 - ・現役の保護者の意見をアンケートで聞くようなことをしてはどうか。
- 学校跡地の使い方も議論すべき
- 小中一貫校の前に、修学旅行や遠足等イベントを合同開催できたらよい など

現時点の到達点と今後の予定

- ・子育て・教育部会への市からの小中一貫校に関する情報提供は終了。
- ・専門部会としては情報の理解・共有が進んでおり、今後は就学前児童及び小中学校児童生徒の保護者をはじめ、地域での情報共有を進めていく。

時期	予定	内容
11月	情報提供会	11/18 情報提供会の開催 （富秋中学校区各校児童・生徒保護者 就学前児童保護者対象）
12月～	専門部会	情報提供会の結果報告 今後小中一貫校を前提とした内容の検証を進めることについて意見交換 小中一貫校のイメージについて検証・議論（予定） ※留守家庭児童会、学校跡地利用、学校既存機能（学校開放・避難所）整理 学校への付加機能（図書館開放）、就学区域 等